



みんなで考えよう! これからの学校教育の在り方。

これからの学校教育の在り方を考える。(資料)
 ～揖斐川町立小中学校の現状と今後の取組みについて～

今年度、学校教育の在り方審議会では、答申の策定に向けて検討を進めていきます。その際、①教育的視点 ②地理的条件や地域連携の視点、③学校施設の適正化の視点、④まちづくりの視点から検討していくこととしていきます。

ここでは、①教育的視点のうち、「揖斐川町立小中学校の現状と今後の取組み」について町民の皆さんとも情報を共有し、今後の検討に役立てていただきたく思います。「確かな学力」の育成、豊かな心の醸成、健やかな体づくり、だれ一人取り残さない教育の推進、いじめの未然防止と対応力の強化、CS(コミュニケーション)を核とした地域とともにある学校運営、みんなで考える「これからの学校教育」の在り方の4点についてそれぞれの概要を説明します。まずは、小中学校の現状についてご理解願います。



■ 確かな学力の育成(以下、令和7年度「全国調査」の結果)

小国	無回答率全国平均以上、正答数6問以下10%以上
小算	「思考・判断・表現」全国平均を1.4pt下回り
中国	「文章の構成や展開について根拠を明確にして書きまとめる問題」正答率が14.1%と最低値

<今後の取組み>

- ①年間・単元・単位時間＝「個別最適な学び」と「協働的な学び」のバランスを取りながら展開する。
- ②非認知能力の育成(学びに向かう力・人間性等)
 - ・自己管理能力、コミュニケーション能力、協調性、粘り強さ、好奇心等、将来の社会生活における重要性
- ③実生活・実社会の課題解決に学ぶ探究的な学びの充実

■ 豊かな心の醸成(以下、令和7年度「全国調査」の結果)

質問項目	区分	小学校		中学校	
		そう思う	どちらかという	そう思う	どちらかという
将来の夢や目標がある	町	46.4%	32.7%	35.3%	27.2%
	全国	60.6%	21.8%	36.1%	30.2%
人が困っていたら助ける	町	49.1%	46.4%	52.9%	38.2%
	全国	46.0%	46.7%	38.3%	51.8%

<今後の取組み>

- ①(異学年、異世代、異文化・言語等)さまざまな人たちとの交流に学ぶ「ふれあい活動」で「寛容な心」を醸成する。
- ②地域の自然、伝統文化、キャリア形成等、多様な体験活動を通して、よりよい生活や生き方への考えを深める。
- ③「道徳授業づくり研修会」等を通して、道徳的判断力を高める授業づくり、「いのちの教育」について学ぶ。

■ 健やかな体づくり(令和7年度「新体力テスト」の結果)

- 児童生徒の運動機会はコロナ禍前の状況に戻りつつある。
- ▽スクリーンタイム(スマホ、タブレット等の使用時間)の増加、低年齢化への不安あり。

<今後の取組み>

- ①学校において、ACP等を取り入れた体力向上、「チャレンジスポーツinぎふ」への参加等により運動に親しむ機会を拡充する。

■ CSを核とした地域とともにある学校運営

- 学校運営協議会の設置により、学校の運営方針等を地域と共有、住民の教育活動への参加促進、導入前からの活動の発展、教職員との良好な関係等に成果が認められた。
- 「教頭業務支援員」を配置し、教頭の多忙化解消に取り組んだ(前年度比で約17分の時間外勤務時間の縮減)。
- ▽導入初年度で地域住民への周知不足は否めず、学校運営協議会そのものへの理解が十分でない。

(各学校の好事例)

- ・揖斐小、北方小：地域の伝統文化を学ぶ学習
- ・小島小：地域づくり協議会とタイアップした授業づくり
- ・大和小：校舎西道路の安全表示(運転手への注意喚起)
- ・清水小、小島小、谷汲小：通学路、集団登下校、バス停
- ・北方小、谷汲小中：クマ対策講話

<今後の取組み>

- ①学校運営協議会委員を対象にした実務者研修会の開催
- ②学校運営協議会を中心にした組織的な活動を推進するため、地域住民の参画による部会を設置する。
 - ・登下校の安全確保、学習(教育活動)支援、児童生徒の地域ボランティアのコーディネート

■ だれ一人取り残さない教育の充実

(特別支援教育の充実)

- 揖斐特別支援学校と連携した教員研修により、障がい種に応じた支援やケース会議の効果的な方法を学んだ。

<今後の取組み>

- ①教員の専門性と指導力の向上
 - ・揖斐特別支援学校と連携した研修によるスキルアップ
 - ・人事異動(研修校派遣)を活用した長期的な人材育成

(不登校対策と児童生徒等支援の推進)

- ▽不登校児童生徒数は増加、小学校低学年から傾向あり。

<今後の取組み>

- ①小1プロブレムと中1ギャップの解消による新規の不登校児童生徒の増加と不登校に悩む保護者への支援
 - ・幼保小「かけ橋プログラム」の実践、小中交流の充実
 - ・民間を含む関係機関との連携による居場所づくり
 - ・「保護者のつどい」による相互のネットワークづくり

■ いじめの未然防止と対応力の強化

認知件数：R5(103件) R6(95件) R7(89件)

- 「市町村教育長によるいじめ対策の連携強化に関する覚書」(7.6.25)の締結により、市町村および関係学校のいじめ対応・未然防止の取組みに学べるようになった。
- 生徒指導部会夏期研修会を新たに実施し、いじめ認知力の向上と学校の組織対応力の強化を図った。

<今後の取組み>

- ①揖斐川町「いじめ防止基本方針」の改訂により、いじめ重大事態への組織対応の在り方を再整備する。
- ②市町村連携を進め、未然防止と組織対応の充実を図る。

■ みんなで考える「これからの学校教育」の在り方

○「子どもたちのために必要だと思う教育環境」(揖斐川町学校教育の在り方審議会・住民アンケート調査)

順位	一般住民	町内小中学校の教職員
1位	多くの仲間と関わりながら切磋琢磨できる環境(58%)	多くの仲間と関わりながら切磋琢磨できる環境(65.1%)
2位	地域の人たちとの交流の機会が多く、地域全体で(子どもたちを)育むことができる環境(35.6%)	一人一人に先生が目が行き届き、きめ細かな指導を受けられることができる環境(47.9%)

<今後の取組み> 審議会の予定：年5回(4/28 6/19 8/22 10/15 12/28)、1/22答申、他市町村の取組みや学校等の視察

- ①これからの学校教育については、子どもの育ちを中心に据え、少子化等の社会の変化に対応した教育内容や、地域とのつながりを大切にしたい教育活動等が具現できる環境を整えていく必要があり、以下の4視点から検討する。

(1)教育的視点、(2)地理的条件や地域連携の視点、(3)学校施設の適正化の視点、(4)まちづくりの視点